はじめまして。
電通クリエーティブXの峯尾心です。
2013年度のリマーカブル・プロダクションマネージャー・オブ・ザ・イヤーを受賞させて頂きました。

僕は元々テレビディレクター出身で、この会社に入ってからこの賞のことを知り、
CM業界で働いていると一生懸命働けば表彰してくれるんだなぁと思っていたものでした。
僕が受賞したのは入社して2年目の年になるのですが、チーフPMとして任されるようになってまだ間もない時に受賞作となった銀のさらのCMを担当することになりました。
応募したキッカケは、上司からの推薦もありましたが、今でも自身トップ3に入るくらいの「低バジェット」「短納期」「100を超えるカット数を2日間徹夜で」という厳しい条件の下スタッフの全協力があり
やりきったということを皆んなに知ってもらいたいという想いが一番だったかもしれません。
応募者の中には超有名なCMを作っているチーフPMばかりだったのでグランプリはおろか一次も通過できないと思っていました笑

実際受賞させていただいてから今も私のプロフィールの受賞歴にリマーカブル・プロダクションマネージャー・オブ・ザ・イヤー2013（当時）と一番最初に書いてますが、それで仕事を受注したことはありません笑
まず思ったのは「あー、自分がやってきたことは間違ってなかったんだ、めちゃ大変だったもんな〜」と自信になったことです。
この自信というものがとても難しく、CMって視聴率が出る訳ではないし、そのお陰で商品が売れたのかどうか成果が見えなかったので、作っている身としては良かったのかどうかわからないのです。
広告業界に賞が多いのはそういうことなのかなとも思ったりします。作品でも個人でも何かを受賞して初めて自分がやっていることが認められた気がしたのです。
そしてもちろん映像制作は1人ではできないので、スタッフや会社の同僚（先輩後輩）への感謝の気持ちが湧きました。
以後、プロデュースする立場になってからもこの自信と感謝は自分の根幹にあると思っていて、気付かせてくれたのは間違いなくJACグランプリの受賞でした。

今では映像制作は続けつつ、自身では映像も紙媒体もWEBサイト制作も配信もクライアントのプロモーションやキャンペーンをトータルでプロデュースできるプロデューサーを目指しています。
JACアワードがキッカケで周りのライバル達の仕事ぶりも見ることができて、さらに活躍しているのを見ていると僕も新しいことやっていかなければというモチベーションになります。
何より時代に合わせて広告制作プロダクションも変革していかなければならないし、映像以外に新しい分野にチャレンジできる、プロデュースできるというのはこの業種の魅力でもあると思います。

映像制作会社でしょ？って思っている若手の皆さま、僕も最初はそう思っていましたが、
いろんなことをやれる時代になってきました。
「やってみるか」くらいの気持ちで応募してみてください。
周りを見ることで必ず世界は広がりますし、自分の現在地を知り見つめ直す機会になると思います！

電通クリエーティブX
プロデューサー
峯尾心